

七栄タイムズ

新しい年を迎えて

校長 鎌田 栄治

令和6年を迎えました。能登半島地震や羽田空港の事故などの影響が、大変心配されるお正月となりましたが、健やかに新年をお迎えできましたでしょうか。本年も子どもたちの笑顔のために寄り添える学校を目指して頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年の干支は、「辰（龍）」です。十二支の中で唯一架空の生き物ではありますが古代中国では身近な生き物で、縁起の良い動物と考えられていたようです。また、権力の象徴とされており、「正義」を表すこと、さらに龍は雲を起し雨を降らせる神（龍神）として、水を守るとも言われています。

「龍と水」にまつわる話として、「印旛沼と龍神」の民話があるのはご存じでしょうか。その民話によると、今から千年以上も昔、印旛沼に一匹の「小龍」が住んでいたとのこと。ある年に雨が全く降らず、田んぼの稲や畑の作物も枯れ始め、村人達は、大変困っていた。小龍は村人達のために雨を降らせた。田畑も生き返り村人達は喜んだが、小龍は雨を降らせた後、雷に打たれ、体が引き裂かれてしまった。引き裂かれた体は、「頭」と「腹」と「尾」に分かれ、それぞれ落ちた近くのお寺で奉られるようになった。というお話です。因みに頭が落ちてきたとされるお寺は、印旛郡栄町の「龍角寺」腹は、印西市の「龍腹寺」尾は匝瑳市の「龍尾寺」と呼ばれるようになったとのことでした。

小龍は村人達のために「正義」と思って雨を降らしたが、体は引き裂かれてしまいました。実は、雨を止めていたのは「大龍王」で、それに逆らったからだとのことでした。

この民話は、印旛沼の環境問題を考えることに使われることがありました。大切な地域の水資源となる印旛沼の水質を良好にすることや周辺の植物を人間の力で守っていくという視点で様々な取り組みが工夫されたようです。

「正義」という視点でも考えることができる民話であると思います。

小龍は、村人達のために頑張って雨を降らせ、村人達から感謝されました。しかし、大龍王からは、決まりを守らなかった「ひどい龍」と思われたのかもしれません。どちらが正しいのか、考え方は様々であると思います。

「正義や命の大切さ」について考えることは、子どもたちの心の成長はもちろんですが、我々大人にとっても社会生活に貢献するためには、大変重要なことであると思います。

多様性が重視され様々な考え方が、認められる社会において、自分の幸せと共に周囲の幸せも考えて判断し、行動する。そして周囲の幸せが自分自身の喜び、幸せに感じられる人であってほしいと思います。

民話や神話には物語を楽しむとともに、道徳的な考え方や規範意識を高めることにつながるものが多いです。是非、御家庭においても参考にいただき、お子様と一緒に考えていただきたいと思います。

